

インフルエンザ予防接種説明書 ※保護者の皆様:必ずお読みください。

お子さんのインフルエンザ予防接種は、定期接種とは違い、希望する方が受ける「任意の予防接種」(予防接種法に基づかないもの)です。

以下の説明をよくお読みいただき、ワクチンの効果や副反応等を理解した上で接種を希望される方は、接種費用の一部を助成いたしますので、医師と相談のうえ、お子さんの体調がよいときにお受けください。



1. インフルエンザとは

季節性インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状もみられます。お子様ではまれに急性脳症を、ご高齢の方や免疫力の低下している方では二次性の肺炎を伴う等、重症になることがあります。

季節性インフルエンザは流行性があり、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がります。日本では、例年12月～3月が流行シーズンです。

2. ワクチンと予防接種の効果

現在国内で用いられているワクチンは、従来の注射での不活化ワクチンと2歳以上19歳未満を対象に、鼻に噴霧する経鼻生ワクチンの2種類があります。ワクチンの有効性に大きな差はなく、また副反応にも大きな問題はありません。季節性インフルエンザワクチンに含まれるウイルス株は季節性インフルエンザの流行やウイルスの状況を参考にして毎年決定されています。

どちらも、接種すればインフルエンザに絶対にかからない、というものではありませんが、インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては、一定の効果があると報告されています。

日本では、例年12月～3月頃に流行し、例年1月末～3月上旬に流行のピークを迎えますので、12月中旬までにワクチン接種を終えることが望ましいと考えられます。

日本小児科学会では、経鼻接種において、ぜんそくの症状がある場合は注意が必要としています。また、周囲の人がワクチンに含まれる毒性の弱いウイルスに感染する可能性があることから、周囲に授乳中の人や免疫不全の患者がいる方へは、注射での不活化ワクチンを推奨しています。

お子さんの健康状態をよく知っているかかりつけ医と相談し、接種の検討、ワクチンの選択を行ってください。

3. 予防接種の副反応

注射の場合、比較的多くみられる副反応には、接種した場所(局所)の赤み、腫れ、痛みなどが挙げられ、接種を受けられた方の10～20%に起こりますが、通常2～3日で消失します。

経鼻接種では、鼻水、鼻づまりや咳、のどの痛みなどが現れることがあります。

全身性の反応としてはどちらの接種でも、発熱、頭痛、寒気、だるさなどがあらわれることがあります。

また、まれではありますが、ショック、アナフィラキシー様症状(発疹、じんましん、赤み(発赤)、掻痒感(かゆみ)、呼吸困難等)がみられることもあります。

⇒ 裏面もご確認ください！

4. 予防接種を受けることができない人

- ① 接種当日、明らかに発熱(通常37.5℃以上)している方
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ インフルエンザ予防接種の接種液に含まれる成分によって、アナフィラキシー(重いアレルギー反応)を起こしたことがある方
- ④ インフルエンザの予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった方
- ⑤ 明らかに免疫機能に異常のある疾患にかかっている方及び免疫抑制の治療を受けている方(経鼻弱毒性ワクチンの場合)
- ⑥ 妊娠していることが明らかな方(経鼻弱毒性ワクチンの場合)
- ⑦ その他、接種医が不適当な状態と判断した方

5. 接種を受けるにあたって注意が必要な人 接種前にかかりつけ医によく相談しましょう

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などの基礎疾患がある方
- ② 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた方及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常がみられた方
- ③ 過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系の病気がある方
- ⑥ インフルエンザワクチンの成分又は鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対して、アレルギーを起こすおそれのある方
- ⑦ 周囲に授乳中の人や免疫不全の患者がいる方(経鼻弱毒性ワクチンの場合)



6. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後 30 分間程度は、急な副反応が起こることがありますので、医療機関でお子さんの様子を観察するようにしましょう。
- ② インフルエンザワクチンの副反応の多くは 24 時間以内に現れますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日は、激しい運動は避けましょう。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

7. 他の予防接種との関係

他の予防接種との同時接種は、医師が時に必要と認めた場合に行うことができます。
インフルエンザ予防接種について不安や心配なことがある時は医療機関にご相談ください。

8. 予防接種による健康被害救済制度について

予防接種法に基づかない任意の接種について、ワクチンを適正に使用したにもかかわらず発生した副反応により健康被害が生じた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法等に基づく救済の対象となります。